

## ニュースレター

# いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課  
西表森林環境保全ふれあいセンター  
平成 23 年 4 月 発行 No. 29 号



セイシカ（聖紫花）

### ガイド講習会の開催

2月22日、沖縄森林管理署と西表森林環境保全ふれあいセンターの共催でガイド講習会を西表島の竹富町離島振興総合センターにおいて実施しました。

このガイド講習会は、平成19年度に森林環境教育及びイリオモテヤマネコ等の希少野生動物のモニタリング調査のために設置した木道（延長150m）の利用を希望するガイドの皆さん等を対象に行い、今回で4回目になります。

今回は、沖縄森林管理署、環境省西表自然保護官事務所、気象庁石垣島地方气象台、独立行政法人森林総合研究所林木育種センターの各講師から、西表島の保護林、公園内での利用と規制、機能性樹木の育種研究、迅速な気象情報の入手とその利用について説明して頂きました。

また、木道等におけるモニタリングに活用して頂きたいとの考えから、森林環境教育の教材として作成した「西表島の植物誌」を受講者に配布しました。

受講者は、これまで最も多かった平成20年5月22日の39名を大幅に上回り、聴講者1名を含め50名となり、準備した資料の一部が足りない程でした。その後に受講した4名を加えると今回の受講者は54名でした

受講者の皆様には安全に十分留意して木道を利用して頂きますようお願いいたします。



ガイド講習会風景

### 船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施

3月3日、4日、15日の3日間、船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施しました。

3月期は、ニッパヤシ及びニッパヤシ周辺に生育しているオヒルギ等の生育状況、開空度、さらに昨年12月の船浦ニッパヤシ植物群落保護林の保護管理検討委員会における委員の提言に基づき、地盤高及び塩分濃度は測定方法を修正し、葉の位置、小葉の長さ等の調査を追加して実施しました。



地盤高の測定風景

### 船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施

3月14日（月）、内離島に生育するニッパヤシの実態調査を実施しました。

内離島のニッパヤシの株の位置については、以前調査したものがありますが、近年では株数及び株の位置についての調査報告はなくその実態がはっきりしませんでした。

今回、株の位置及び株数について調査したところ、15m×15mの区画の中に107株、葉の総本数は437本、葉幼は101本、さらに種子のついた株は8株を確認しました。20株(本)の中から無作為に抽出した葉について、その長さを測定したところ230～510cm、平均389cmでした。

平成7年の調査では12m×12mの区画に65株でしたので、株数だけでは2倍近くに増えているようです。



内離島のニッパヤシ群

### 平成23年1月～3月期におけるヒナイ川・西田川の利用状況

ヒナイ川の利用状況調査を1月12日、2月10日、3月11日に、西田川は2月25日にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川では、1月期はカヌーツアー1組（ガイド含め2名）、2月期はカヌーツアー3組（ガイドを含め14名）、3月期はカヌーツアー11組（ガイド含め47名）でした。一方、西田川はカヌーツアー1組（ガイド含め4名）で、ガイドを除くと利用者は男性1名、女性2名の熟年世代の方々でした。

1月期はリュウキュウツワブキの花が、2月期以降はセイシカの花が見頃を迎え訪れる人々の目を和ませていました。



ヒナイ川係留地に訪れるツアー客

### 「仲良川マングローブ林のモニタリング調査（新規設定）を実施

1月19日、20日に仲良川の倒伏箇所及び立ち枯れ箇所においてモニタリングのための調査区を設定しました。

この仲良川流域においても、浦内川、仲間川同様にマングローブ林の倒伏等の発生が見られることからその原因究明のために調査区を設定しました。今回の調査区設定に際しては、西表島でカヌーツアーを実施している事業者からマングローブ林の倒伏等の情報を頂き、当センターも下見を行い、今後の推移を観察するため現況調査を実施して経過を確認する必要があるものと判断しました。

今後、現地調査等で得られた情報はこのニュースレター等を通じてお知らせします。



調査地を設定した仲良川河岸

### 海岸林再生試験地の補植・成長量調査を実施

2月7日(月)、海岸林自然再生試験地において、干ばつや台風などによる枯損箇所の補植作業と自然再生状況を把握する成長量調査を実施しました。

補植作業は、試験地が先週からの降雨で冠水しているところもあり、作業をやり繰りしながら無事終わることが出来ました。

また併せて実施した試験調査は、外来種であるギンネム(ギンゴウカン)が侵入している海岸防潮林を、自然災害に強い在来植生の森林に再生させる道筋を付けるためのものです。在来種の生育状況は、昨年の台風11号被害によりヤンバルアカメガシワなどの早成樹は大きな被害を受けていましたが、テリハボクやフクギは被害を受けながらも、それを乗り越え確実に生育しており、今後の成長に期待が持てます。



植栽木の成長量調査

### 移入種ソウシジュの現況調査を実施

西表島西部の白浜を起点に旧白浜林道が延びています。この沿線には外来種であるソウシジュの侵入が確認され、平成18年3~4月にかけて調査プロットを4箇所設定し、経過観察を実施しています。

2月23日、ソウシジュの現況調査を実施しました。

ソウシジュの現況は、径級の大きい個体は枯損しているものもあり樹勢が衰えつつあるのではと推測されますが、幼木の個体は被陰されながらも生育しているなど、相対的には変化は少ないものと確認しました。

今後も、生育状況や分布状況についての調査を継続していくこととしています。

なお、旧白浜林道沿線の中程には、外来種のシユロガヤツリ(多年生草本)が数十メートルにわたり転々と集団で生育していることを確認しました。



ジャングル化した旧林道を歩く

### 漂流・漂着ゴミの実態調査(1・2・3月期)を実施

漂流・漂着ゴミ調査を1月6日、2月1日、3月2日に実施しました。

この時期になると観測地点6箇所の内、島の東側のユチン、船浦湾(外側)の海岸線にペットボトルや発泡スチロールなどの漂着ゴミが集まってくるようです。特に発泡スチロール製の漂着ゴミはマングローブ林よりさらに奥深く侵入しているようです。

2月期には観測地点の近くにアオウミガメの死骸が打ち上げられていました。寒さのせいでしょうか。また、南風見田の浜では起点としているポリ杭の近くまで川の流れが移動して浜砂が海中に流出しています。



砂が流出している南風見田の浜

# 西表島の植物

## イリオモテアザミ

学名：Cirsium brevicaule var. irumtiense.

科名：キク科

属名：アザミ属



### 分 布

宮古、石垣、西表、与那国島の固有変種。

### 形 態

奄美大島から沖縄に分布するシマアザミの固有変種で、海岸の砂浜や岩場に生え、高さ20～100 cmになる多年草の草本です。

花は紅紫色で、茎と葉の裏面には毛があります。

## 職員の異動のお知らせ (平成23年4月1日付)

----- お世話になりました (^\_^)/~~ -----

上席自然再生指導官 (所長) 杉野 恵宣 (すぎの よしのぶ)

転勤先：九州森林管理局 (熊本県熊本市) 指導普及課 企画官 (自然再生)



平成18年8月に赴任し4年8ヶ月が過ぎました。赴任当時、小学3年生だった娘も4月から中学2年になりました。家族一同、八重山が大好きになり離れがたい気持ちを振りほどきながらの旅立ちです。

ハイウエーダーを着用してのニッパヤシやマングローブ林等の調査では、夏はハイウエーダーの中が蒸し風呂状態、山に登れば軽い熱中症気分でしたが、西表島の豊かな自然が五感を通して体の中に飛び込んできました。石垣、西表島では多くの皆様にお世話になりました。そして、充実した仕事をさせて頂き、本当に有難うございました。

\*\*\* よろしくお願ひします。 m(\_\_)m \*\*\*

上席自然再生指導官 (所長) 山下 義治 (やました よしはる)

前任地：九州森林管理局 (熊本県熊本市) 指導普及課 技術開発主任官



指導普及課在勤中の平成20年8月に西表島へ出張した際に九州と異なった亜熱帯のマングローブ林を始めとする植物等の森林の豊かさに感動しました。この度、その地に勤務することとなり、自然再生、生物多様性の保全、森林環境教育、エコツーリズム等の多岐に渡る業務にやりがいと責任の重大さを感じています。今後、西表島の森へ足を運び西表森林環境保全ふれあいセンターの各業務を進めると共に当センターの取り組みをPRしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

林野庁 九州森林管理局 指導普及課 西表森林環境保全ふれあいセンター  
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内  
TEL: 0980-88-0747 FAX: 0980-83-7108  
URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>